

⑥ 眼感染症（イ）はやり目（ウイルス性急性結膜炎）

急性結膜炎ってどんな症状がでるの？

結膜炎になると、結膜が赤くなったり（充血）、まぶたの裏側にブツブツができて目やにや涙が増え、かゆみ、しょぼしょぼ感、ゴロゴロ感、まぶしい感じなどがあらわれます。症状がひどくなると、出血、耳の前のリンパ腺（耳前線）の腫れ、まぶたの急激な腫れ、しろめがブヨブヨしてくる（結膜浮腫）、発熱などが起こることもあります。

急性結膜炎はなぜおこるの？

細菌・ウイルス・カビなどの微生物、紫外線、ほこり・ごみ・摩擦などの物理的刺激、酸・アルカリなどの化学的刺激、花粉などによるアレルギー反応などによって結膜に炎症が起こります。このうち、短期間に集団的に発生する急性結膜炎がいわゆる“はやり目”といわれるもので、日常よく見られる代表的な病気です。これは、患者の目からの分泌物がもとで伝染します。ウイルスによるものが最も多く、伝染性も非常に強いので感染予防がとても大切です。

ウイルスってなに？

ウイルスは、細菌よりも小さい目に見えない微生物で、自分で生きることができません。ヒトや動物の細胞内に侵入して、その細胞を自分の住みやすいように変えて住み着きます。ウイルスの住み着いた細胞はやがて衰え、死んでしまい、病気になります。ところが、ウイルスに対するヒトや動物の抵抗性が強い時は、ウイルスは活動をすることができないので、病気になりません。ウイルスに侵されないためには、強い体を作ることが大切です。

ウイルス性急性結膜炎の種類と症状

- はやり目ー流行性角結膜炎（アデノウイルス 8 型、4 型、37 型、19 型感染）
まぶたの裏側のブツブツや充血、まぶたの腫れ、流涙などの症状が激しくあらわれます。感染してから 7～14 日で発病します。

- プール熱ー咽頭結膜熱（アデノウイルス 4 型、3 型感染）
プールで感染することがあり、プール熱ともよばれます。
結膜にブツブツができて、咽頭（いんとう）炎による発熱を起こします。
感染してから 5～7 日で発病します。
- 急性出血性結膜炎（エンテロウイルス 70 型感染）
感染してから 1～2 日後に突然眼球結膜に出血を起こし、ゴロゴロ感、充血、まぶしさなどがあらわれ、結膜にブツブツができます。

ウイルス性急性結膜炎の治療法

この病気に有効な点眼薬はありません。ウイルスに対する抵抗力をつけるため、休養を十分にとって体力をおとさないことが必要です。また、補助的に他の感染を起こさないために抗菌点眼薬や、炎症をおさえるためにステロイド点眼薬などを使用します。他の人にうつさないように十分注意しましょう。

後遺症と合併症への注意

結膜炎の症状がおさまってきた頃に、くろめ（角膜）の表面に小さな点状の濁りが出てくる場合があります。このときに治療をやめると、くろめが濁って視力がおちてくる場合がありますので、治ったかなと思っても、医師がいいと言うまで点眼などの治療を続けるようにしましょう。

プールでは気をつけよう！

- 長時間泳ぐ時は水中メガネなどを使用する。
- 目が充血していて目やにが出る日はプールに入らない。
- 泳いだあと、目が充血していてもあわてず様子を見る。
（ウイルス性結膜炎でないことも多い）。
- プールサイドに点眼薬を持って行かない。（薬の変質、汚染のおそれがある）。

感染予防対策 6 箇条！

- 手を流水や石けんでよく洗う。
- 休養を取って体力をおとさない。
- 保育園、幼稚園、学校は医師の許可があるまで休む。
- 人ごみへ出かけない。
- 医師の許可があるまでプールに入らない。
- 患者のタオル、洗面用具などは家族のものと別にする。

資料参照『参天製薬株式会社』を引用させて頂きました。